

総務産業
常任委員会



町営育成牧場の現状と今後について

令和7年11月13日



北清水団地の牛舎

町営育成牧場は、本町の基幹産業である酪農の振興に伴い、飼料基盤の確保や規模拡大に伴う乳牛の育成期間の労力、経費の削減など、基幹産業の一助とする目的で設置された。

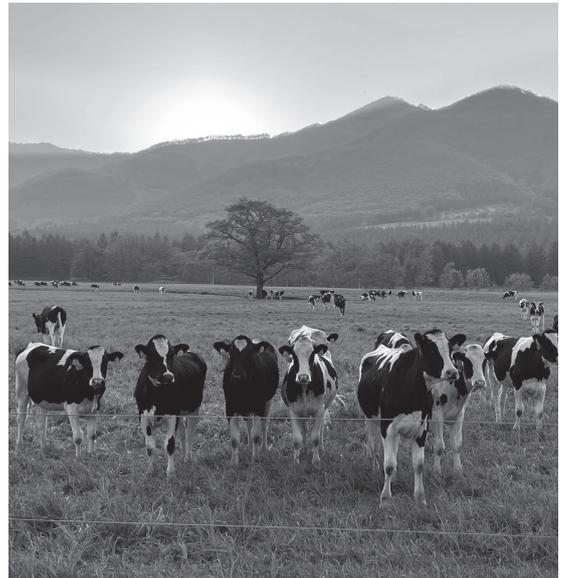
直近の整備事業として、総事業費約22億円をかけて、令和元年度から6年度までに実施した道営公共牧場整備事業が完了し、本委員会として調査を実施した。

【現状と課題及び今後の対応】

町営育成牧場は、円山団地と北清水団地の2つの団地からなり、昭和43年から49年にかけて整備し開設された。現在、牛舎7棟と飼料庫4棟のほか、令和元年度から6年度までの事業でバンカーサイロを3基整備し使用している。管理用機械は、トラクター8台があり、機械の大型化が進んでいる。今年度よりドローン3台を導入し、牛の管理への活用を試みている。

収支状況については、平成30年度までは黒字で、それ以降は赤字が続いている。経費の高騰により経営努力で賄いきれなくなっていることが原因となっている。

利用状況については、町内からの預託が100%となっており、令和7年度は夏期放牧が1,990頭、冬期舎飼が1,260頭を承認している。使用料については、現



放牧中の円山牧場

在管内最安値レベルにあるため、改定の提案を予定している。(第7回定例会にて提案・可決)

現在、ドローンの活用を進め、事故防止や見回りの効率化を図っているが、牛の細かな状態確認には人の目が不可欠と認識している。高額な機械更新に悩みながらも、効率と質を保つため、飼料を自給や収穫作業を自前で行う方針であり、サポートセンターの利用が減ったとのことである。



川上委員長



橋本副委員長



山本委員



桜井委員



佐藤委員



西山委員



山下議長

【まとめ】

乳牛の頭数は増加し、酪農家は減少している中で、育成牧場の重要性は年々高まっている。一方で、職員の高齢化、施設の老朽化による修繕・更新費用の増大、使用料の適正化などの課題も明確になった。今後は、中長期的な視点に立った経営を目指すことが何よりも重要である。

厚生文教
常任委員会



持続可能な地域医療と町の医療保険財政について



令和7年11月6日

人口減少と高齢化が進む本町における地域医療提供体制の維持と、医療費の増大に伴う医療保険財政の構造的課題を把握し、議会としての提言に繋げることを目的として実施した。

【地域医療の持続可能性について】

清水赤十字病院より、新入院患者数および外来患者数は、人口減少や受診抑制等の影響により減少傾向にあり、病床稼働率は病床数の削減を行ったため一定水準を維持しているが、費用増加と収益減少が続き、経営環境は依然として厳しい状況にあるとの説明を受けた。

また、病院側からは、通常の経済条件下では病院を維持できる人口規模に達していないこと、町からの補助金が不可欠であることが示された。



清水赤十字病院、町保健福祉課、町民生活課より説明を受ける

保健福祉課からは、清水赤十字病院への切れ目のない運営支援補助に加え、病床を持つ医療機関に対して、休日夜間の応急診療報償や、病床・医師確保に関する補助金を継続して実施していること、特に診療所への医師確保補助金は、令和6年度から段階的に縮減しつつも継続していることについて説明があった。

町民生活課からは、国民健康保険事業の現状について、国保の世帯数・被保険者数は減少が続き、被保険者の高齢化により、一人当たりの医療費が年々増加していることが示された。

これにより、令和6年度には国保税率の改定が行われた。また、令和8年度から「子ども分」の支援金支出が始まり、令和12年度には全道統一保険料が導入される見込みであり、今後も保険料負担の増加が想定される。



厚生文教常任委員会



田村委員長



只野副委員長



中河委員



鈴木委員



中島委員



深沼委員



山下議長

【まとめ】

今回の調査を通じて、清水町における「地域医療の維持」は、町の存続と町民の安心に直結するきわめて重要な課題であることを再認識した。特に、病院経営の厳しさという構造的課題に対し、議会と行政が共通認識のもと、短期的対応を超えた持続性ある計画を策定すべきであるとの結論に至った。